

おまじないをかけて

千葉市立泉谷中学校 3年 山田 凜

私は小さかったころ、幼稚園が少し苦手だった。よく知らない人たちと何時間も一緒にいることになかなか慣れることができなかった。そんな私が幼稚園に行くときによくしていたのが、家の近くの公園を通ることだった。公園といっても遊具がたくさんあるようなところではなく、木々の生い茂る静かな公園だ。梅雨の時期になると、色鮮やかな紫陽花の花が咲いてきれいだったのを今でも覚えている。緑に囲まれた道を15分ほど歩く。そうすると緊張がスッと抜けていき、心が落ちつく。そして、なんだか大丈夫な気がしてくるのだ。昔の私は、幼稚園に行く前に公園を通ることを「おまじない」といって、時間があるときはいつも、おまじないをして幼稚園に登園していた。

先日、通っている中学校で租税教室が開かれた。その名の通り、税についての知識を深める教室だ。そこで特に印象に残ったのが、私たち中学生が教育を受けられるように一人あたり年間で約112万2千円の税金が使われているということだ。今までの私の税に対するイメージは「払うもの」だった。けど実際には私に対して多くの税金が使われていた。私の中のあたりまえが税金によって支えられていたことを知り、驚くと同時に、身近な税について興味を持った。家に帰って調べてみると、救急車やごみ収集車などの公共サービスにも税金が使われていた。普段の生活の基礎中の基礎の部分が税金によって支えられていたなんて。中でも私が気になったのは公園に使われている税金だ。近所の公園には小さいころから行っていたし、小学生になってからも友達とよく遊びに行っていた。公園は私にとってとても身近な場所だ。そして、そんな公園を整備するのに使われていたのが税金だった。それだけじゃない、公園の警備にかかる費用にも税金が使われていた。私の好きなあの公園が昔も今も美しく保たれているのは、税金による支えがあるからだ。幼稚園のころ、私の心を癒やしてくれた、おまじないをかけてくれたのは、あの公園であり、一緒に手をつないで歩いてくれたお母さんであり、税金のおかげでもある。そして税金は、元をたどるとたくさんの人に行き着く。昔の私、そして今の私も税金に、たくさんの人に支えられているのだ。

今までの私は、税金に支えられているという認識が欠けていたが、ここでその意識がめばえて良かったと思っている。なぜなら私はこれから大人になっていき、税金を通じて子どもたちを支える立場になっていくからだ。